

決議案第 6 号

ワンヘルスの推進に関する決議案

上記の決議案を次のとおり福岡市議会会議規則第14条第1項の規定により提出します。

令和3年12月24日

福岡市議会

議長 伊藤嘉人様

提出者 福岡市議会議員

堤田 寛	津田 信太郎	平畑 雅博
淀川 幸二郎	勝山 信吾	尾花 康広
松野 隆	堀本 わかこ	中島 まさひろ
はしだ 和義	森 あやこ	倉元 達朗
田中 たかし	近藤 里美	

ワンヘルスの推進に関する決議

中東呼吸器症候群（MERS）、重症急性呼吸器症候群（SARS）、そして新型コロナウイルス感染症（COVID-19）等の人獣共通感染症は、人が免疫を保有せず、治療法が確立していないものも少なくない。また、新興感染症の多くは人獣共通感染症であり、時に爆発的に感染が拡大し、大流行となって人に甚大な被害を及ぼしてきた。

こうした人獣共通感染症は、問題となってきた背景として人間社会の変化と人間の行動の多様化が挙げられており、農耕や都市化による森林開発など、人による地球の生態系に影響を及ぼす行為が繰り返され、その結果、人と野生動物の生存領域が近接したことから、人にも感染するようになったとされている。

そこで、人獣共通感染症の防疫等を推進するため世界獣医師会が平成5年に発した「ベルリン宣言」が端緒となり、世界保健機構（WHO）や国際獣疫事務局（OIE）等が平成16年に公表した「動物と人及びこれを取り巻く環境が生態系の中で相互に連携しており、人の健康は生物多様性の中で維持できていることを踏まえ、感染症リスクの抑制を図る戦略的枠組みが必要である」とのワンヘルスに関する「マンハッタン原則」を経て、平成24年には、世界獣医師会と世界医師会がワンヘルスの理念に基づき連携する旨の覚書が締結された。

このような状況の中で、平成28年に北九州市で開催された世界獣医師会と世界医師会によるワンヘルス国際会議において、ワンヘルスの理念から実践に移行させる礎となる「福岡宣言」が採択され、本年1月5日に「福岡県ワンヘルス推進基本条例」が公布、施行された。

アジアの玄関口として福岡空港・博多港を抱える本市としては、現在市民生活や経済活動に深刻な影響を与えている新型コロナウイルス感染症を始めとした人獣共通感染症対策や人と動物の共生社会づくりといった、ワンヘルスの実践は喫緊の課題である。

よって、福岡市議会は、市長に対し、「福岡県ワンヘルス推進基本条例」の具現化を図るため、次の事項について取り組むよう求める。

- 1 ワンヘルス実践（人と動物の健康及び環境の健全性を一体的に守るための6つの課題への取組）の基本方針を具体化する県行動計画に連携協力すること。
- 2 市民へのワンヘルスの周知に努め、理解の促進を図り、その実践活動に対し、必要な支援を行うこと。

以上、決議する。

令和 年 月 日  
福岡市議会